

平成 30 年 4 月 10 日

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報（第 1 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トルコギキョウ斑点病
2. 作物名：トルコギキョウ
3. 病原名：*Pseudocercospora nepheloides* (= *P. eustomatis*)
4. 発生地域：紀の川市
5. 発生確認の経過

平成 29 年 11 月下旬に紀の川市の施設栽培トルコギキョウにおいて、葉に灰褐色で円形のかびを生じる病害が発生した（写真 1）。当該部分を実体顕微鏡および生物顕微鏡で観察したところ、*Pseudocercospora* 属菌様の分生子座および分生子が確認された（写真 2）。農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、本県未発生のトルコギキョウ斑点病と同定された。本病は平成 20 年に福岡県で初めて発生が確認され、平成 28 年に高知県、大分県、熊本県、宮崎県、長崎県で発生が確認されている。なお、本病の病原菌の学名は Braun (2009) により *P. eustomatis* から *P. nepheloides* に変更されている。

6. 病徴および被害

葉に 5～10mm 程度の退緑斑が生じ、その後、葉表と葉裏に灰褐色～黒褐色のすす状病斑が形成される。やがて葉は枯死する。

7. 病原菌の特徴

病原菌は糸状菌の 1 種で不完全菌類に属する。分生子座は直径 40～50 μm で濃褐色、分生子柄は淡オリーブ色で叢生する（写真 3）。分生子は円筒形～倒棍棒状、基部は円錐状に細まり、截切状、大きさは 18.7～71.6 μm × 3.0～5.9 μm 、0～6 の隔壁を有する。

8. 防除対策

本病害に対する登録農薬はないため、以下の耕種的防除を徹底する。

- 1) 多湿は発生を助長するので、育苗施設および本圃での湿度管理に注意する。
- 2) 発病を認めた場合は、発病葉を切除して圃場外に持ち出し、土中に埋設するなど適切に処分する。



写真 1. 斑点病の症状

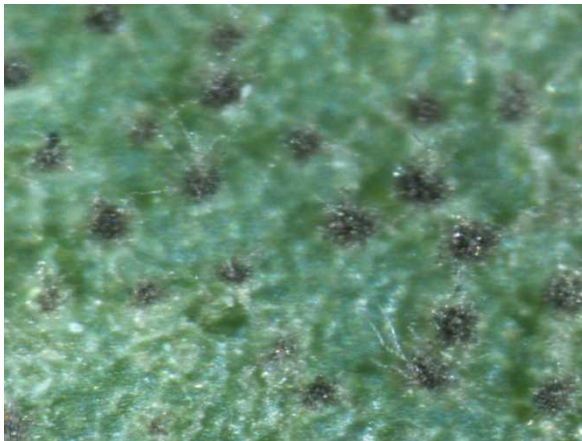


写真 2. 病斑部分の拡大

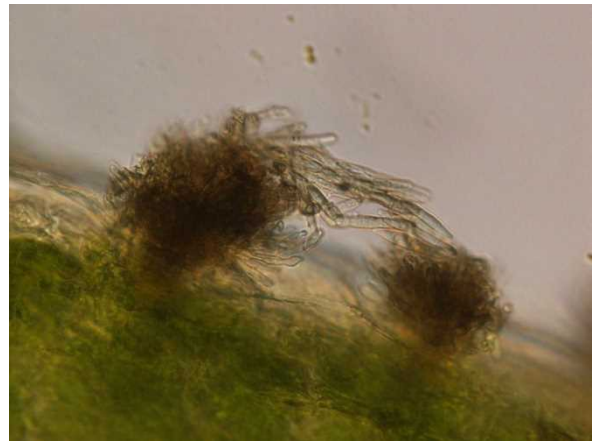


写真 3. 病斑上の分生子座と分生子

和歌山県農作物病害虫防除所
担当：岡本晃久
電話：0736(64)2300